

平成 26 年度第 2 回村民意見交換会概要報告（母島）

今回の意見交換会は、「ネズミ対策」をテーマに関して行政側から取り組みの現状と課題を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。ご意見を、テーマごとに「主な意見・課題」と「行政機関の対応」として以下にまとめました。いただいたご意見は、今後開催される課題ワーキングの場で取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 外来ネズミ対策について

■ 兄島のネズミ対策事業の顛末について

【主な意見・課題】

- 毒餌を食べたネズミを食べたネコが具合が悪くなるのは聞いたことがあるが、ノスリや、鳥類などへの影響の検証は行うのか。海洋生物への影響も想定されるなら、説明にあたっては漁協への声かけも必要ではないか。
- 母島はメグロが罾に混獲されるので、同じ方法は使えないのではないか。
- オガサワラカワラヒワの調査は実施されているか？渡ってくる个体数が減っていると思うので、ネズミ駆除を急いでほしい。国有林課において、姉島のカワラヒワの現状を調査してほしい。
- 南島のベイトステーションは、わざわざ人員とお金をかけて撤去しなくてもよいのではないか。

【行政機関の回答】

- ・ 他の生物への影響は、特に、生物濃縮に関する話題は、重要な検証事項と認識している。陸域だけでなく、海域も検証の対象となる。
- ・ 行政事業については、他の生物を含めた自然界への影響の実証データが揃い安全性が検証できるまで、自然界に広く散布することは見合わせとする（海洋や、天然記念物のオカヤドカリなどへの影響に関する実証データがなく、言葉で説明するだけでは不十分と考えるため）。ただしネズミによる被害も喫緊の課題なので、環境省で検証作業は早急に行う予定である。（小笠原村）
- ・ 科学委員もこの問題を重く受け止めており、地域の方の不安・疑問に科学者として応えたいとのことである。本会以外にも意見交換の場を設け、専門家の意見もうかがいながらコミュニケーションをしていきたい。（環境省）
- ・ 母島の属島において、カワラヒワ、陸産貝類へのネズミによる被害が出ている状況は認識しており、引き続き、調査を行いながら、必要な手を打ちたい。（環境省）
- ・ 兄島では、ネズミワナ等様々な方法を試しており、効果が出れば、皆さんにお伝えする。得られた知見には、母島本島におけるネズミ対策などに活用できればと思う。（環境省）
- ・ 南島のベイトステーションについては、殺鼠剤を使用する事業に関し、村民の皆様にご説明することなく実施してきたこと、安全性の説明数値が間違っていたことを重く受け止め、一旦は撤去する。（東京都）

■農地と集落内のネズミ対策について

【主な意見・課題】

- 議題に深く関わる関係者との話し合いの機会を別途作っていただきたい。農地のネズミ対策に関してならば農業者が集まる場で話してはどうか。個別ヒアリングの方が意見を率直に述べられるのでよい。
- 空き地が多いこともネズミ生息の温床になっている。河川清掃等、適切な処置を行っていただきたい。
- 殺鼠剤を撒くと、集落地で死骸の腐敗臭がするのでよくない。カゴ罠で捕獲したとしても、殺生に抵抗があるので、役場で処置していただけないか。
- ドブネズミの対策も同時に進めてほしい。
- 現状使用している殺鼠剤よりさらに効果の高い薬もあるそうだが、それに対して殺鼠剤購入費補助がなされる可能性はあるのか。
- ネズミも、活発に動く時期とそうでない時期があるので、活発でない時期のデータだけに基づいて判断するのではなく、年間を通じて対策効果を検証いただきたい。

【行政機関の回答】

- ・ 農地周りからのネズミ流入低減試験を父島の農家で行った。農地周辺にベイトステーションを設置して対策実施前後の被害状況を比較したところ、対策の効果が認められた。次年度以降の母島での実施を含め、事業化も検討してみたい。(小笠原村)
- ・ 父島では、みのり会で説明した際にたくさんの意見をいただいた。母島でも同様の場を設けたいとは思っているので産業観光課に相談してみたい。ネズミに関しては農家と直接話をする機会を設けたいとは思っている。(小笠原村)
- ・ 父島では、農地におけるネズミ対策の優良事例勉強会を実施した。母島での実施は、今後検討していきたい。(東京都)
- ・ いただいた意見を役場内で共有し、実現可能な対策を検討したい。カゴ罠の貸し出しについては、以前も案が出たが、後の処理ができないので使いにくいとの意見があり、立ち消えとなった。(小笠原村)
- ・ 農薬登録されていない薬剤は、農地での使用は禁止されている。より強力な殺鼠剤に対する補助については、産業観光課に相談する。(小笠原村)
- ・ 効果の持続期間の検証は年間を通じてやってみたい。また、事業でどう展開するのか考えていきたい。(小笠原村)

2. 村民意見交換会について

【主な意見・課題】

- 本会の趣旨がよくわからない。
- ドック中は参加しにくい人もいるので、想定する対象者を変えて複数回開催しては。
- テーマに深く関わる村民に個別に声をかけたり、個別ヒアリングを行う等してほしい。
- 意見が科学委員会に届いた後の対応が知りたい。オンラインのツール等も活用し、ダイレクトなフィードバックがほしい。

【行政機関の回答】

- ・ 主に世界遺産と村民生活との接点に関連した行政事業の実施状況を説明した上で、村民の声を聞き、それを事業へ活かす目的で開催している。今後は、開催時期・周知方法を十分に工夫したい。(小笠原村)
- ・ 対策を進めるにあたっては、村民の皆様との合意形成が重要になるので、方法論を含め事務局内で検討していきたい。(小笠原村)
- ・ 本会でいただいた意見は、地域連絡会議での報告を経て科学委員会に届く。フィードバックの方法を検討したい。(小笠原村)
- ・ こうした意見交換の場があったからこそ、殺鼠剤毒性情報に関する間違いにも気づけた。村民との対話の場を大切に扱っていきたいと思う。(環境省)

3. その他

■メグロ・アカガシラカラスバトについて

【主な意見】

- メグロやアカガシラカラスバトは世界遺産の魅力向上にも資するものである。保護の手立てや飼育施設の建設等も検討してはどうか。

【行政機関の回答】

- ・ 現物を見る体験は重要と認識している。(環境省)
- ・ 天然記念物の移動は難しい他、保護対象の動物を籠内に入れて飼育することに抵抗を覚える方もいるので、難しい問題である。(小笠原村)